

令和 1年 8月 3日

東員町議会 教育民生常任委員会 委員長 三林 浩 様

東員町議会 教育民生常任委員会

委員 山崎 まゆみ

研 修 報 告 書

研修期間	令和 1年 8月 1日(木) ～ 8月 2日(金)
研修(視察)先	東京都八王子市生活安全部防災課、八王子市議会・・・(8月1日) 東京都北区危機管理室、北区議会、北区防災センター・・・(8月2日)
目的(テーマ等)	○防災について(自主防災組織、防災アプリ、災害時要援護者支援、 防災政策への女性参画、性別・多様性の視点、住民啓発) 等
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページ

研修概要、内容、所感

《研修概要》

◎東京都八王子市

生活安全部 防災課長

東京都はそもそも広域消防である。消防庁との連携もある。

災害に強いまちづくりを目指している。

日ごろから身近な災害の危険について把握し、事前の対策を進めておくことが大切。一人ひとりの防災意識の向上が求められている。

八王子市議会 副議長 五間 浩さん

八王子市は市内に 21 の大学を有する学園都市、

平成 26 年 4 月八王子市議会基本条例策定

『八王子市総合防災ガイドブック』を作成。活用。まずよく読んで下さい

＝〇市内全域の土砂災害・洪水のハザードマップ

〇様々な災害時取るべき行動、事前の備えに必要な事

《事前質問》

① 『八王子市総合防災ガイドブック』について

平成 30 年八王子市内全域の土砂災害警戒区域の指定が完了し、市長公約事業としてガイドブック作成に着手。305,000 部作成、業務委託約 1,200 万円

② 『防災無線の活用』について

防災行政無線、電波法改正に伴うデジタル化は今年度で終了。

有料ではあるが、(株)ジェイコムサービス提供地区の住民が専用受信端末を家庭に設置すれば防災行政無線を荒天時でも聞ける。

③ 地域や仕事場で防災訓練をする人達への支援

●『自主防災組織ハンドブック』

●防災資器材の支援

●八王子市自主防災団体連絡協議会

④ 非常時に連携できる協定締結について

●物資供給、無線通信、避難所として施設提供、廃棄物収集業務など
248 団体と協定締結(うち民間は 151 団体)

⑤ 外国人の啓発、防災訓練

- ・外国人については多文化共生推進課と協働、外国人対象の防災訓練もある
- ・市内のモスク礼拝時を利用したりしている。
- ・[Voice Tra]多言語音声翻訳アプリ

⑥ 災害弱者の把握と避難訓練実施について～地域で共に助け合う～

- ・障がい者手帳所持の方は 4 万人。
- 町会、民生委員が把握している。

⑦ ・「自主防災組織」＝地域住民で日ごろから互いに協力しながら取組む防災組織のこと(平常時の活動&災害時の活動)

- ・「地域支援組織」＝災害時の要支援者の支援に特化した共助の取組み
- ⑧・担当課職員が地域に赴き、「出前講座」実施している
(ガイドブックの活用法等)

・広報を使ったり、SNS で住民に伝えている。

「町会活動はイヤだけれど、自主防災の活動は必要だよ」という住民の声

- ・ 防災指導員の育成
- ⑨・『総合防災ガイドブック』全戸配布

・ 出前講座として自助の重要性を伝えるため

“はちおうじ出前講座”、“ ” 総合防災ガイドブックセミナー “実施

★家族で話し合う防災対策(事前に話し合っておく)

★危険な場所の確認(自宅周辺、通学路・通勤路、ハザードマップ)

★気象情報の確認(気象庁と気象協会とで、情報が異なる場合があるため、複数の情報を収集)

★★女性の視点(女性を始めとする多様な視点を活かした避難所運営を心掛ける)

★ペットの同行避難(避難所ではルールに従い、飼い主が責任もって)

★★★トイレの備え(自助)・・・簡易トイレ、便袋の備蓄は1日7～8回

目安に用意

★耐震ブレーカーの設置

★帰宅困難者対策「東京都帰宅困難者対策条例」

◎東京都北区 視察研修会場；東京都北区防災センター(地震の科学館)

北区議会事務局 次長 木暮貴志さん

北区議会議長 渡辺かつひろさん

北区危機管理室参事・防災課長 伊藤元司さん

《事前質問》

① 中学生防災学校…区立中学2年生対象の防災訓練

➡将来の防災リーダーになってもらいたい！

② 自主避難施設の運営

・ 中小河川の氾濫、土砂災害の恐れがある場合、避難勧告に先駆け避難できるよう開設運営は区職員

・ 大規模災害時の避難所運営は町会、自治会が開設運営

(*事前に避難所開設本部キットが配布してある)

③自治会未加入区民、外国人世帯への防災情報の提供は大きな課題である

④ 災害弱者の把握について、要介護3～5の登録者でなく、自力で避難困難で支援が必要と希望する区民の把握が完ぺきと言えないことが課題。

現時点で聴覚障がい者団体の防災委員会と定期的意見交換をしており、自主防災組織の避難訓練の紹介、地域の中で顔が見える関係づくりを支援している。

⑤ 日ごろから自助、共助の必要性を伝えている。”自ら備えをしてほしい！

⑥ 町会加入率の低下、町会長の高齢化などで自主防災組織の機動性は高くなく、地域の多様な活動団体に防災対策を考えてもらう場を設ける。

モデル事業➡『地域円卓会議』・・防災課、地域振興課が主管する
～地域が防災力を高められるように～

★★『東京都北区オリジナルコンテンツ』（N T Tタウンページとタイアップ）

2017年3月～2020年1月で終了

★★『東京都防災アプリ』2018年3月～

★★『東京くらし防災』冊子、アプリ 2018年3月～

《研修所感》

東日本大震災、熊本地震を始めとする大地震、豪雨災害や台風による風水害が近年多発しています。国、各地で様々な災害対策を検討されていますが、東員町も取組を適切に進められるよう、十分な成果を上げられるよう、本当に町民の安全を守るものとなっているかなど、防災に関して議員としてどのような視点を持つべきであるかを先進地視察で、ポイントを絞って学びたい、と委員会の視察に臨みました。

事前質問に対し、八王子市、北区、両自治体ともに丁寧にご回答いただいた上、住民への配布物や資料も沢山いただき、とても分かりやすい説明で参考にさせていただくことが多く、大変充実した視察研修でした。

①あらゆる防災関係者が災害対策の中で、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人、性的マイノリティの多様性等の視点が重要であることを認識して防災施策立案、現場対応にあたらないといけない点を改めて認識しました。この点について不可欠な知識を再度得られるよう、東員町のあらゆる防災関係者(職員、消防、警察、教職員、医療、リハビリ・介護、ソーシャルワーカーなどを含む福祉関係者、障害者団体、子育ての民間団体、自治会など地域の組織)が研修を受ける機会を設けていただきたいと、あらためて強く感じます。②災害時要援護者の支援については、年齢・性別・障害の種類等、災害時に実際に直面する現実を考えて、より現実的で効果的な支援につながるように再度見直す必要があると思います。その際ぜひ先述①のような人々(多様な障害を持った人々、乳幼児、妊産婦、高齢者、外国人など)当事者の声が反映されるように、意見を聴くべきであると思います。③東員町は住み良い町で、特にネオポリス地区は自然災害に対する危機意識がほとんどない人が大半です。「日ごろの備えが必要である」という啓発チラシ等見ても他人事と思っている人もいます。このような状況から、多少なりとも町民の意識改革が進むような具体的な啓発イベントを、小さな地域単位で取り組んでいく必要性を感じます。地域での防災活動について、どのように取り組んでいけばよいのか、地域の皆さんと共に考え、自発的な活動を含め、様々な取り組みに協力していきたいと思います。その際に、固苦しい話でなく、楽しく地域の皆さんと仲良く取り組めるイベントとなるように、考えていけるようにと、協力していきたいです。

防災対策、支援体制について八王子市、東京都北区両自治体の取組を聞かせていただき学んだことを、東員町議会教育民生常任委員会で意見交換し、東員町の防災政策への提言としてまとめられるよう、視察研修の総括ができればよいと思います。

猛暑の時期の視察は大変でしたが、多くの皆様にお世話になり、充実した内容となりました。感謝いたします。